

Kobe プロジェクトにおける生成系AIの使用同意書

令和 年 月 日

() 年 () 組 () 番 生徒 名前 ()

保護者 名前 ()

次の1～6の内容を生徒が指導を受けたことを確認し、Kobeプロジェクトにおける生成系AIの使用を同意します。

【生徒の使用について】

- ・Kobeプロジェクトにおいて生徒が研究に関連して生成系AIを使用する場合は、該当生徒が保護者自筆の「Kobeプロジェクトにおける生成系AIの使用同意書」を担当教員に提出する。同意書は最終的には研究部で保管する。
- ・該当生徒に対して、講座もしくは学年Kobeプロジェクトの担当教員が以下の点について同意書を提出する前に指導する。

- 1 生成系AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめるような使い方等に関すること
- 2 個人情報やプライバシーに関する情報、機密情報を入力しないこと
- 3 著作権の侵害につながるような使い方をしないこと
- 4 生成系AIに全てを委ねるのではなく最後は自己の判断や考えが必要であること
- 5 生成系AIを利用した成果物については、生成系AIを利用した旨や引用した旨を明示すること
- 6 生成系AIによる生成物の内容を、適切な引用や確認を行わずに自己の成果物として応募・提出することは、不適切または不正な行為であること

神戸大学附属中等教育学校 生成系AIガイドライン

2023年7月19日制定

2024年7月1日改訂

1 趣旨

神戸大学附属中等教育学校(以下、本校)では、すべての教職員・生徒(以下、構成員)が個人の責任において行う学習活動及び研究活動を最大限に尊重するとともに、本校の構成員が基本的人権・著作権等の各種権利を侵害し、本校の信頼や品位をそこなうことなく、生成系AIを適切に利用することを目的とし、神戸大学附属中等教育学校生成系AIガイドラインを定める。

2 定義

生成系AIとは、ChatGPT、BingAI、GeminiやMidjourneyなどに代表されるインターネット上の既存の文章や画像、利用者により入力された文章や画像などを機械学習し、新たな文章や画像を生成するシステムの総称をいう。

3 概要

生成系AIは、膨大なデータからパターンを学習し、確率を用いて自然な回答を判断し、生成するので、回答には誤りを含む可能性や既存の著作物に類似したもの・依拠したものが出力される可能性がある。したがって、生成物の信憑性・類似性・依拠性を利用者が判断しなければならない。また、入力した内容は学習される可能性があるため、機密情報や個人情報、虚偽の情報や真偽の不明な情報などを入力してはならない。つまり、生成系AIを利用するにあたっては、当該分野に関する一定程度の知識と相当程度の良識が必要である。

4 原則

(1) 法令の遵守

日本国の法令、各種サービスの利用規約(ChatGPT...13歳以上・18歳未満は保護者の同意が必要、BingAI...成年・未成年の場合は保護者の同意が必要、Gemini...13歳以上(画像生成については18歳以上)など)、神戸大学及び神戸大学附属中等教育学校の諸規則を遵守する。留学・海外旅行に際しても、諸外国の法令や国際法を遵守する。

(2) 各種権利の尊重

基本的人権・肖像権・プライバシー権・著作権・著作者人格権・著作者隣接権・知的財産権などを尊重し、これらに関わる文章・画像等を入力してはいけません。生成系AIに入力されたこれらの情報は他の利用者へ出力される可能性があり、その意図がなくとも将来的には各種権利を侵害する可能性があることを理解し、入力する内容については十分に吟味しなければならない。また、出力された情報に既存の著作物との類似性(創作的表現が同一又は類似であること)や依拠生(既存の著作物をもとに創作したこと)が認められる場合、それを利用することは著作権侵害となることを理解し、生成物の利用にあたっては各種権利の侵害がないか十分に吟味しなければならない。

(3) 業務・研究等で知り得た情報・個人情報の保護・プライバシーの保護

業務・研究等で知り得た情報、個人情報やプライベートな情報を入力してはいけません。生成系AIに入力されたこれらの情報は他の利用者へ出力される可能性があり、その意図がなくとも情報漏洩や個人情報流出の可能性のあることを理解し、入力する内容は十分に吟味しなければならない。また、出力された情報に個人情報やプライバシーに関する情報が含まれている場合は、利用してはならない。

(4) 他者への配慮

1人ひとりの個性や多様性を尊重し、異なる意見や考え方、選択をお互いに認め合う利用を行う。とくに、基本的人権に反する誹謗中傷や差別的な内容、差別を助長するような内容の入力は、法令に違反しない場合であっても許されるものではないことを理解し、入力する内容を十分に吟味しなければならない。そもそも、これらの内容を含む表現を行ってはいけません。

(5) 情報の真偽・信憑性の判断

生成系AIの特性上、出力された内容が事実とは限らないことを理解し、その活用の際には既存の客観的な資料を用いて回答の真偽・信憑性を十分に吟味しなければならない。また、虚偽の情報や真偽の不明な情報、誤解を招くような情報を入力してはいけません。生成系AIにおいては入力した内容も機械学習される場合があり、これらの情報を入力することは、社会の混乱や特定の個人・団体への誹謗中傷を助長するだけでなく、その情報の出力を得た人たちに強い不安や怒りを生じさせるなど、社会に大きな悪影響を及ぼす可能性がある。

(6) 違法行為・迷惑行為に係る情報発信の禁止

違法行為や公共のルールやマナーに反する行為については、その行為自体を行ってはいけません。また、そのような内容を含む情報は入力してもいけません。

(7) コンテストやコンクール等への応募の禁止・論文やレポート、課題の提出の禁止

生成系AIによる生成物をそのまま自己の成果物として応募・提出してはならない。また、生成物を引用の要件を満たさずに論文やレポートに記載することは剽窃となる。なお、生成物を引用する場合は、既存の客観的な資料を用いて真偽を確認し、事実であることが確認できたもののみを引用する。ただし、生成系AIを研究の対象としている場合は、その限りではない。

5 調査

本校の構成員が生成系AIを利用した結果、法令違反、人権侵害及び守秘義務違反の疑いが生じた場合には、関係機関と協議・調整し、当該者の情報発信に関する履歴等を調査する。

6 安全性

生成系AIは、単なる情報の検索を行なっているつもりでも、入力した情報も含めて機械学習され、自分が予想していない形で全世界の利用者に公開される可能性があることを理解しておかなければならない。インターネットの特性として流出した情報は一瞬で全世界に共有され、いったん拡散された情報を完全に削除することはできないことを理解しておかなければならない。また、利用する場合は、設定がオプトアウト(入力されたものを機械学習に利用しない)なのか、オプトイン(入力されたものを機械学習に利用する)なのかを確認し、必要に応じてオプトアウトの設定を行う。

7 責任

すべての構成員がこのガイドラインに書かれていることを順守しなければ全体の安全を保つことができないことを理解し、本校の構成員としての自覚と責任を持ち、良識ある行動に努めなければならない。